

的被害が発生している。

次に、災害に関する過去の主な記録を記述する。

災害に関する記録等

ア 西予市の主な気象災害

年月日 (西暦)	原因	被害状況
平成16年 (2004) 7月31～ 8月1日	台風第10号	床下浸水：2棟、2世帯、5人、田流失：3.4ha、畑流失：0.9ha、道路：36か所、砂防：1か所、農業施設：1か所、農作物被害、ため池：5か所、頭首工：1か所、水路：4か所、農道：13か所、林道：2か所、被害総額：623,715千円
平成16年 (2004) 8月30～ 31日	台風第16号	住家一部破損：8棟、7世帯、15人、床上浸水：8棟、8世帯、22人、床下浸水：139棟、139世帯、339人、道路：46か所、河川：5か所、水道：2か所、農畜産物被害、農業施設：77か所、山地崩壊：3.7ha、林道：10か所、林業施設：1か所、被害総額：1,059,708千円、自主避難：41世帯、81名、避難勧告：対象6世帯、17人（実避難者：5世帯11人）
平成16年 (2004) 9月7日	台風第18号	軽傷者：1人、住家半壊：5棟、6世帯、21人、住家一部破損：37棟、37世帯、103人、床上浸水：2棟、2世帯、6人、非住家：9棟、田流失：3.81ha、畑流失：1.38ha、道路：11か所、清掃施設：1か所、農林畜水産物被害、農業施設：86か所、水産施設：57か所、漁船：10隻、ため池：7か所、頭首工：13か所、水路：21か所、農道：45か所、被害総額：1,477,640千円、自主避難：45世帯、72人
平成16年 (2004) 9月29日	台風第21号	道路：12か所、農畜産物被害、畜産施設：2か所、林道：1か所、被害総額：49,315千円、自主避難：6世帯、10人
平成16年 (2004) 10月20日	台風第23号	住家一部破損：2棟、2世帯、3人、床上浸水：1戸、道路：15か所、農畜産物被害、農業施設：3か所、山地崩壊：0.1ha、林道：4か所、被害総額：160,829千円、自主避難：8世帯、17人
平成17年 (2005) 9月5～ 7日	台風第14号	住家一部破損：1棟、1世帯、2人、床上浸水：10棟、10世帯、20人、非住家全壊：1棟、農林畜産物被害、農業施設：30か所、田流失：2.56ha、畑流失：0.82ha、頭首工：7か所、農道：9か所、橋梁：2か所、林道：9か所、作業道等：74か所、市道：27か所、河川：3か所、被害総額：577,051千円、自主避難：55世帯、106人
平成21年 (2009) 8月9～ 10日	台風第9号	住家半壊：1棟、1世帯、2人、床上浸水：2棟、2世帯、8人、道路：3か所、被害総額：47,000千円、自主避難：1世帯、2人
平成23年 (2011) 9月20～ 21日	台風第15号	死者：1人、床上浸水：2棟、2世帯、2人、田流失：1.1ha、畑流失：0.1ha、道路：4か所、被害総額：114,764千円、自主避難：2世帯、2人
平成24年 (2012) 6月21～ 22日	梅雨前線豪雨	住宅全壊：1棟、自主避難：1世帯、2人

イ 西予市の主な地震災害

年月日 (西暦)	原因	被害状況
平成18年 (2006) 6月12日	大分県西部地震 ※1	西予市 震度5弱 市内での被害は特になし
平成26年 (2014) 3月14日	伊予灘の地震	西予市 明浜町・三瓶町 震度5強 宇和町・野村町・城川町 震度4 三瓶町で住宅の一部損壊及び道路損壊。

※1 平成18年(2006)大分県西部地震の記録
平成18年6月12日午前5時1分、大分県西部を震源とする地震(東経131度26.1分、北緯33度08.1分、深さ145km、M6.2)が発生し、広島県呉市、愛媛、大分県佐伯市で震度5弱を観測した。
この地震による被害は、主に揺れによるものであった。県内市町村の震度は次のとおり
震度5弱：今治市、八幡浜市、伊方町、西予市

3 生物(植物・動物)

1 植物

当市は、東の四国カルストの山々、西は宇和海に面する標高差約1400mを誇るまちであり気象学的にも珍しく、豊かな自然環境に恵まれて多様な植物が生育している。

四国カルスト大野ヶ原には、氷河期の遺存植物やキキョウ、カタクリ、ヒメユリ、クマガイソウ、セッコク、スズムシソウほか多くの絶滅危惧種があり、貴重な植物の宝庫である。野村町の桂川には、日本でここにしかないカツラガワスゲがある。

その他、西予市内の主な植物として、山里の城川・野村地域ではブナ・ナラ・カエデなどの広葉樹が多く分布している。

宇和町は山々に囲まれた海拔200mの盆地にある。最も高い山の大判山789.7m、大野山796.6m、高森山634.9m、堂所山593.2m、極山529.0mに囲まれている。1,000mを超す山はなく、植物の垂直分布的なものは見当たらない。しかし、暖地植物のクスノキ、タブノキ、エノキ、ヤマモモなどが自生している。また、高山植物もキク科、キキョウ科、リンドウ科、ツツジ科、カエデ科、ユリ科、マツ科などの植物がある。人工造林も多く、ヒノキ、スギ、クヌギ林がそれであり、加えて自然造林のアカマツ林が宇和の山々を青く彩っている。宇和町内には120か所を超える大小のため池があり、アオカモメヅル、イシモチソウ、イトイヌノヒゲ、フナバラソウ、ミズオトギリなど、湿地性植物の貴重な生息場所となっている。

三瓶、明浜地域の宇和海沿岸は、気候温暖のため、亜熱帯植物のアコウ樹の自生を始め暖地性植物の自生が多い。海岸に沿ってハマユウ、マルバシヤリンバイ、ハマヒサカキ、トベラ、ハマウド、ハマナタマメ、ヤシヤブシなどが見られる。リアス海岸で急傾斜地も多く、ウバメガシの純林のほか、クヌギも見られる。